

令和3年度 山口大学教育学部附属光小・中学校（光学園） 研究だより（春号）



第3回 小中一貫教育研究発表大会（オンライン）

小中一貫教育への歩みを通して、深い学びの在り方を探る（3年次）

～問いで学びを紡ぐ～

令和3年 6月26日（土）



※本研究発表大会は、教員免許状更新講習の対象となります。

オンラインでの研修を行います！

【内容】オンラインでの授業動画視聴，協議会，講演会等

★県内各地及び全国から，気軽に御参加いただけます。

★チャット機能等を用いて，気軽に質問や意見交換もできます。

※授業内容や申し込み等の詳細については，5月上旬の二次案内にてお知らせいたします。

参加費
無料

《 午 前 の 部 》

9:00

11:20

12:00

12:30

13:10

(午前の部)
協議会

講演会

諸連絡
アンケート

《 午 後 の 部 》

15:30

16:10

16:40

(午後の部)
協議会

講演会

諸連絡
アンケート

講演

慶應義塾大学

教授 鹿毛 雅治 先生



2月のオンライン公開授業研究会では、多くの方に御参加いただき、ありがとうございました。たくさんの御意見や御助言を基に、研究を進めることができました。研究だより春号では、そのときの様子をお伝えします。詳細は、本校HPを御覧ください。

この度の研究発表大会では、公開授業研究会での成果と課題を受けて、「問いで学びを紡ぐ」という研究サブテーマで公開授業を行います。多くの方の御参加をお待ちしております。

【国語科】

国語科では、「言葉の意味や働きに注目して、互いの思いや考えを伝え合うことのできる子どもたち」を目指しています。そのため、前期では、能動的に読んだり、解釈を広げたりして楽しむこと、中期では、分析的に読んで考えを深めること、後期では、読むことの意義や楽しさを捉えることを大切にするカリキュラムを作成しています。

おにごっこの新しい工夫を紹介しよう ～『おにごっこ』（光村図書2年）～

単元を通して、「すごいぞもりしたさんメモ」に書き手の工夫の効果を蓄積する活動を設定しました。子どもたちは、「書き手の思いを読み手に伝えるための工夫は何か」という問いの解決に向けて、紹介する数や順序を工夫するよさに気づき、自分の紹介に生かしたり、友達の紹介を聞いて工夫を実感したりする姿が見られました。 小学校2年2組 有田 友萌



説得力を高めるのが上手なのは、どちらの筆者かな？ ～『メディアと人間社会』等（光村図書6年）～

問いの大小関係を重視した単元を構成し、小さな問いは、子どもの課題意識を基に設定していきました。そうすることで、子どもたちは、「説得力を高めるのが上手なのは、どちらの筆者なのか」という大きな問いへの思いを持続させながら、序論の述べ方を工夫する効果について、自分の考えを形成することができました。 小学校6年1組 田中 章憲



『シカの「落ち穂拾い」フィールドノートの記録から』 辻 大和（光村図書1年）

図表を抜いた文章を比較対象として用意し、図表の必要性について、自分の考えをもたせる場を設定しました。そうすることで、子どもたちは、「これらの図表にはどのような効果があるのか」という問いの意識を基に、視覚的な効果だけでなく、文章との結び付きに気づき、「わかりやすい文章だ」と実感していました。 中学校1年2組 貞安 菜央



『モアイは語る—地球の未来』 安田 喜憲（光村図書2年）

書き手の見方や考え方に目を向けることを目標に、事例と主張の繋がりを意識した授業構成にしました。「筆者の主張の根拠がどれだけ事例で述べられているのか」という問いを基に、事例と主張の共通点を探ることで、その相違点に気づき、事例と主張を繋ぐ段落の意義や読み手へ与える効果について考えを述べていきました。 中学校2年3組 作花 麗美



【社会科】

社会科では、「社会的な見方・考え方を働かせ、よりよい未来の社会を築いていく子どもたち」を目指しています。そこで、学習課題を追究する子どもの見方・考え方を、これまでの授業実践を基に分類して整理し、多角的に学習課題を追究することを大切にしたカリキュラムを作成しています。

ナベツルのまち八代 ～特色を生かしたまちづくり～

単元を通して、八代地区のナベツルと自然環境を保護する活動について、時間の経過や人々の関係に着目して探る活動を設定したり、新たな資料を必要に応じて提示したりしました。子どもたちは、「これからの八代地区はどうなるのだろう」という問いをつかみ、地域の特色や人々の願いを基に、よりよいまちづくりについて考えることができました。

小学校4年2組 千々松 哲大



おいでませ！中国・四国地方探検隊

～中国・四国地方のどの港湾を整備したら全体が活性化するか～

ジグソー学習で広島、徳山・下松、水島、高松の各港について資料を読み取り、班員で知識を共有した上で、それぞれの港のメリット・デメリットを検証していきました。子どもたちは、「どの港湾を整備したら中国・四国地方の経済・産業が発達するか」という問いをつかみ、中国・四国地方の地形、交通、産業、人口、貿易関係、未来の日本の姿などから、多面的に考察することができました。

中学校2年1組 吉岡 友子



おいでませ！金融の秘密調べたい ～景気と金融政策～

単元を通して、金融政策の一般的な原理から例外的な金融政策を取り上げたり、現代と昔の金融政策を比較したりすることで、現代の金融政策に課題意識をもてるようにしました。そうすることで、子どもたちは金融政策の意味を社会背景等から考え、これからの望ましい金融政策について考えを巡らせていました。

中学校3年3組 河村 崇文



【算数・数学科】

算数・数学科では、授業や日常において、「既知に帰着する見方・考え方」「統合的な見方・考え方」「発展的な見方・考え方」を働かせて思考する子どもの姿を目指しています。そこで、通常の単元カリキュラムとともに、前期、中期、後期の発達段階をふまえ、9年間を通して子どもたちに「こんな問いをつかんでほしい!」という思いで作成したカリキュラムを算数・数学科の授業者で共有し、小学校と中学校の学びを紡いでいます。

すてきなふでばこをつくろう ～はこの形～

単元を通して比較を中心に構成し、本時は、残り1枚の面だけつなげ方が違う3枚の展開図の中から、箱の形になる並べ方を考えるという数学的活動を設定しました。そうすることで、子どもたちは、「残り1枚をどのようにつなげたらよいのか」という問いをもち、さらに、「他の並べ方もしたい」という思いから様々な並べ方を試行することで、立体の構成要素に着目したきまりを見出すことができました。 小学校2年1組 山本 東建



小数のわり算使って「倍」搜索 ～割合克服カリキュラムの一丁目一番地～

割合の苦手意識を払拭するには、小学校6年間を通して倍の見方・考え方を丁寧に育てていくことが大切だと考えます。そこで、4年生段階では小数倍の意味を明らかにする「倍」搜索という数学的活動を設定しました。そうすることで、子どもたちは、「2.4倍を表す竹ひごは『どれ』と『どれ』か?」という問いをつかみ、話し合いながら、「2.4倍や0.4倍の意味とは?」へ問いをつなげ、基準量を1とみる見方を用いて、小数まで倍の意味を拡張することができました。 小学校4年2組 兼安 陽一郎



空間図形 ～立体の表面積～

立方体を切断してできる三角錐の表面積を求める数学的活動を設定しました。その活動を通して、子どもたちは、「どのように分けるか」「どのようにつくられるか」「どのように表すか」「どのように求めるか」という4つの問いをつなげ、空間図形と平面図形を相互に関連付けて思考する姿が見られました。

中学校1年1組 竹坂 豊



【理科】

理科では「科学的に物事を捉え、根拠を基に発展的に思考することができる子どもたち」を目指しています。そこで、立案と考えをつくり出す際の思考の仕方に重点を置いたカリキュラムを作成し、日々の授業づくりに生かしています。

第3学年 これが答えだ！「音へん」 ～音の性質～

音が出ているときの、ふるえがわかりやすい楽器、音の長短の異なる複数の楽器を段階的に扱うことで、子どもが科学的に問いを発展させていけるようにしました。問いに対する納得解を導き出す際の、根拠となる実験結果の扱い方を子どもとどう共有していくかが今後の課題です。 小学校3年1組 宮崎 洸佑



第4学年 科学的に探究せよ！水の正体！ ～温度とものの変化～

「はてなについて正しく調べられる実験方法になっていたか」と実験後に自ら立案した方法を振り返る場を設定することで、科学的に立案することの重要性を捉えられるようにしました。立案の際、実証性・再現性・客観性をより子どもたちに意識させる手立てを更に探っていきます。 小学校4年1組 赤星 冴



【技術・家庭科】

技術・家庭科では、「よりよい生活や社会を創造していく子どもたち」を目指しています。そのため、働かせたい見方・考え方をまとめて整理し、子どもがよりよい生活や社会を創造していく対象の広がりや内容の深まりを捉えることを大切にしたいカリキュラムを作成しています。

家族に作りたい○○献立 ～くふうしよう おいしい食事～

子どもが考えるよりよい献立の観点をレーダーチャートにまとめ、チャートが大きくなるよう献立を計画・評価・修正していく題材を仕組みました。子どもたちは、副菜やみそ汁の選び方の工夫により栄養・色・味等のバランスを整え、自分の家の献立を提案・実践しました。 小学校6年2組 坂本 真友香



ヒータの開発 ～ウミブドウの栽培～

ビジュアルプログラミングによって栽培環境を管理させることで、課題の解決策を具体化させていくように構想しました。子どもたちは、水温に応じてヒータのON・OFFを切り替える制御を実現しようと試行錯誤していました。

中学校2年2組 瀬尾 優治



【体育・保健体育科】

体育・保健体育科では、生涯にわたって運動に親しめるよう「運動との関わり方に着目して、運動の多様な楽しみ方を仲間とともに追究する子どもたち」を目指しています。そのため、働かせたい見方・考え方を、9年間でまとめて整理し、運動には様々な関わり方があることを捉えることを大切にしたカリキュラムを作成しています。

ヒカリンピック！小中合同ホッケー！

～ボール運動（ゴール型）～

問いの大小関係のつながりを重視した単元を構成し、活動の場や問いを設定していきました。そうすることで、子どもたちは、「小中学生が楽しめるゲームにするためには、どうしたらよいか」という大きな問いへの思いを持続させながら、得点をとるためのルールや動きについて自分の考えを形成することができました。

小学校5年1組 田中 歩



ヒカリンピック！小中合同ホッケー！

～球技（ゴール型）～

単元を通して、コートの中の状況に応じて動きを工夫することができるよう、中学生がチームに応じた動きを考えアドバイスをする場を設定していきました。子どもたちは、チームの特徴を踏まえてルールや動きを工夫し、実践につなげるだけでなく、お互いにコミュニケーションをとることで、異年齢集団で関わることを楽しむ姿も見られました。

中学校1年3組 高木 菜満恵



【音楽科】

音楽科では、「自分や他者のよさを生かしながら、これまでの学習と関連付けて担当パートにアレンジを加え、共に一つの音楽をつくっていく喜びを味わう子どもたち」を目指しています。そのため、前期①ではリズム伴奏づくり、前期②は簡単な旋律変奏、中期は和音・低音伴奏の変奏、後期は総合的なアレンジを行うカリキュラムを作成しています。

「ルパン三世のテーマ」をかつこよく合奏しよう

GIGA スクール本格化を前に、iPad の GarageBand を使用した授業を行いました。多重録音機能、音色・速度の変更、指1本での和音演奏、教師が配付した音楽データを活用した変奏など、音楽経験が豊富な児童も支援を要する児童も、誰もが楽しみながら活動することができました。また、つくった音楽をデータで教師に提出させることで、評価の資料にもなります。創作・音楽づくりに有効なアイテムであることを実感しました。小学校5年1組 門田 集二



「テーマソング」を〇〇風にアレンジしよう

中学校では毎年、テーマソングを創作しています。今回、そのテーマソングを「行進曲風」と「卒業式退場曲風」にアレンジする授業を行いました。子どもは対象的な2つの雰囲気表現するためにイメージを膨らませ、GarageBand を駆使してアレンジしました。楽器の演奏が得意な子どもも苦手な子どもも意欲的に創作に取り組む姿が見られました。

中学校2年3組 金光 修一



【図画工作・美術科】

図画工作・美術科では、「互いのよさや美しさを取り入れ、自分の思いを表現することの喜びを感じることで子どもたち」を目指しています。そのために、前時までの活動を振り返る中で、その不十分さや「もっと～したい」という思いから生まれてくる問いを捉えることを大切にしているカリキュラムを作成しています。

ポンポン うつして 大へんしん！！ ～うつした かたちから～

思いと問いのつながりを重視した題材を構成し、問いを、表現方法の工夫に着目できるように設定していきました。そうすることで、子どもたちは、表現への意欲をもち続けながら、自分のポンポンワールドを変身させるために、形や色の組合せを工夫して活動することができました。

小学校1年2組 池内 達也



形や色彩からのメッセージ

～音楽を聴いて表現してみよう～

抽象表現という、子どもたちにとって理解が難しい題材に対して、学年や単元を通して系統性のある鑑賞活動を取り入れ、前時を意図的に意識させるように問いを設定しました。そうすることで、子どもたちは、「なぜ、このような表現に至ったのか？」という問いへの思いをもちながら、自分なりに抽象表現をすることができました。

中学校2年3組 曾根 唯之



【道徳科】

道徳科では、「様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えながら、人間としてのよりよい生き方を見出そうとする子どもたち」を目指しています。そのために、子どもの発達段階（9年間）を考慮した「学習内容カリキュラム（全内容項目）」を創り、日々の授業に活かしています。

ともだちとなかよく

～『二わの小鳥』（学研教育みらい1年）～

問いを自分事として捉えられるように、「ずれを生むこと」「相違点について話し合うこと」という、比較を意識した授業を実践しました。そうすることで、子どもたちは、みんなで仲よくすることの大切さについて、価値理解や人間理解に触れながら意欲的に話し合いました。

小学校1年1組 久保田 高嶺



友情や信頼を考える意義

～『二わの小鳥』（学研教育みらい1年）～

最上級生にふさわしい学習内容を設定し、多様な視点からの問いを紡ぎながら、自分自身のよりよい生き方を模索できるような授業を創りました。小学1年生の教材を活用したこともあり、子どもたちは、心の成長を実感しながら自らの「よりよい友達像」を見出していました。

中学校3年1組 藤永 啓吾



【総合的な学習の時間】

総合的な学習の時間では、「自分の可能性や未来の姿を模索し、生きる道を創り出していく子どもたち」を目指しています。そこで、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究的な学習の過程において、目指す具体的な資質・能力を整理したカリキュラムを作成しています。

環境のためにできること

～護美大作戦～

自分たちの拾ったごみでごみアートを作った子どもたちに、ごみ問題に対して長年取り組んでいるチームみたらい湾という団体の活動と、自分たちのやってきた活動とを比較させました。そうすることで、子どもたちは、自分たちに足りない点に気づき、探究的な学習を進めていくことができました。

小学校3年2組 大塚 進真



【外国語科】

外国語科では、「複数の技能を統合的に活用する活動を通して、既得の知識や経験を生かしてコミュニケーションを図ろうとする子どもたち」を目指しています。そこで、英語表現を用いた、思いや考えの伝え合い、他者とのやりとり、やりとりの継続・発展を、段階的に学習できるようなカリキュラムを作成しています。

おいでよ、ぼくたちの家！

～Where is the station?～

単元の初めに、道案内のデモンストレーションを提示する際、「プレゼントを届けたいけど、家がわからない」という、日常によくある場面設定を取り入れ、どうすればよいかを考えさせました。そうすることで、子どもたちは自宅に案内したいという思いを抱き、目的意識をもって学習に取り組むことができました。

小学校5年2組 石津 友美恵



授業について語り合う会 in 光 令和3年8月6日（金）

【内容】オンラインでの授業づくり講座，実践紹介等

★県内各地及び全国から，気軽に御参加いただけます。

★単元の作り方から，すぐに使える小ネタまで，様々な実践を紹介します。

※講座内容や申し込み等の詳細については，7月上旬に本学園のHPにてお知らせいたします。

参加費
無料

山口大学教育学部附属光小・中学校（光学園）

〒743-0007 山口県光市室積8丁目4-1

小学校 TEL(0833)78-0124 FAX(0833)75-1507

中学校 TEL(0833)78-0007 FAX(0833)75-1509



光小学校



光中学校

光小・中学校 HP にて研究や授業の様子，コロナ禍における授業の工夫などを随時 UP しています！